

森のおくりもの 8

NO.371 The Gift from Woods

ある日のコナラのお客様



ある日、木の周りをチョウがヒラヒラと忙しそうに飛び回っていました。ほとんどのチョウは花の蜜が大好きですが、樹液が好きなチョウもあります。タテハチョウ類の中に多いのですが、この日はシータテハが樹液を目当てに来ておりました。樹液に夢中なのは、カナブンやクワガタなどの甲虫たちも一緒なのですが、生きるための食事だけではなく、命をつなぐためのパートナーを選ぶ社交場として、樹液ポイントはとても大切な場でもあるのです。

ガイドウォークで紹介することも多いのですが、近年、クワガタ・カブトムシ類の発生が少なくなっているようです。ガイドウォークに参加する子どもたちに、ぜひこの様子を楽しんで欲しいと思いますし、SDGs(持続可能な開発目標)17項目の15番目に「生物多様性損失の阻止を図る」とありますので、太白山自然観察の森は宮城県自然環境保全地域に指定されていることから、ここでの生き物の採集はご遠慮ください。 【館長:佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

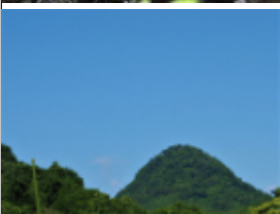
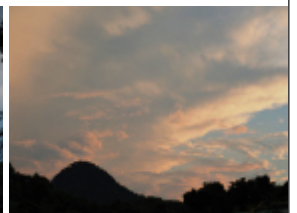
『君子、危うきに近寄らず』（くんし、あやうきにちかよらず）

7月は天候不順を感じ、大雨も降りましたので、とても天気予報が気になりました。6月29日の梅雨明け発表の後、厳しい暑さとなったものの、再び梅雨のような天気が続きました。本当に梅雨明けだったのか、まだ明けていなかったのかはっきりしない状況でしたが、梅雨明けがまだだった北東北でも7月26日に発表され、全国的にも梅雨の期間が終わり、夏本番となりました。

夏といえば、レジャーで山や海などの野外へ出掛ける機会が多くなりますが、それとともに事故の報道を目にすることも増えてしまいます。自然の中は楽しいことがたくさんありますが、気象に関する災害、熱中症や危険生物による病気や怪我などの危険なことも多く、誰もが被害に遭う可能性があります。

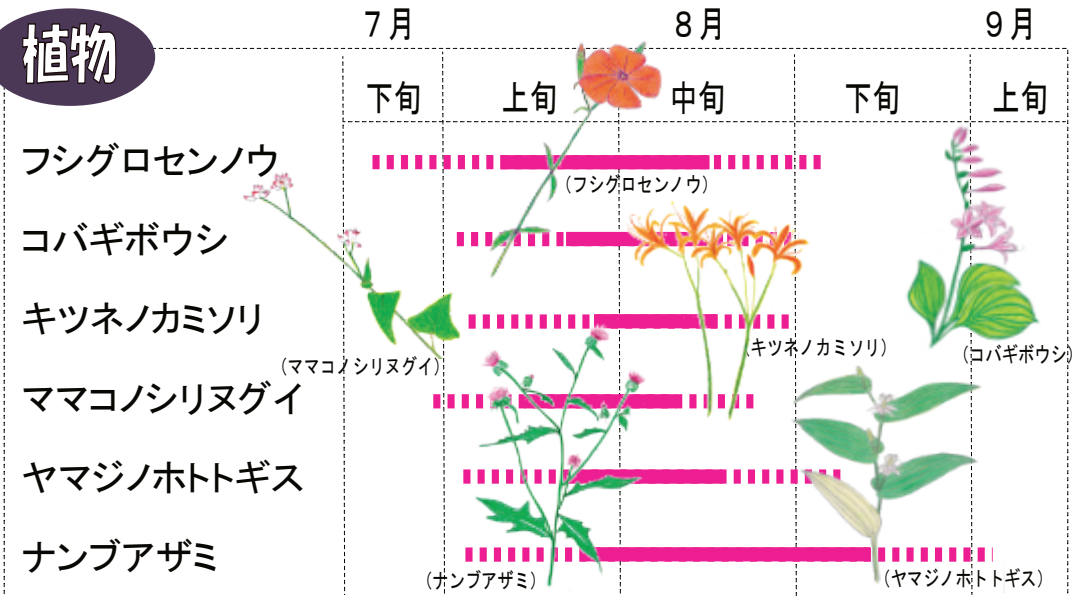
『君子、危うきに近寄らず』という言葉があります。「賢明な人ならば、いつも身を慎んでおり、自分から危ない場所には近づかず、行動に気をつける」という意味です。この言葉は出典が明らかではないようなので、自分なりに考えてみました。別な意味に「不都合があるので敬遠する」ような使われ方がありますが、本来の趣旨としては、「危ないことを避けるため何も行動しないこと」ではないと感じます。自分がしたいことや楽しいことを優先して痛い目に合わないための注意喚起で、慎重に行動すべきという教訓です。君子は「無謀な行動をせず、何が危険なのかを知り、適正に判断ができる人」なので、「安全に過ごすための知識を持って行動ができるので危ない目には遭わない」ということではないでしょうか。

自然をたくさん楽しみたければ、自然のことをよく知ることが大切であるということで、夏の野外活動の心得に相応しい言葉だと思います。安全を見極めて自然を満喫し、夏の素敵な思い出ができるといいですね。 【レンジャー：新田隆一】



8月の生物ごよみ

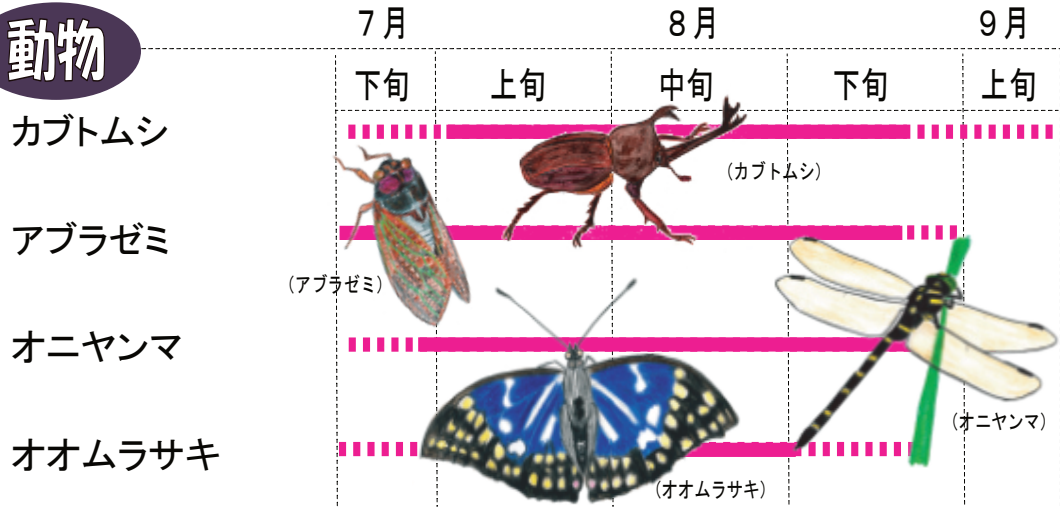
植物



今年はセミの発生が昨年と比べると5日ほど遅れ、ニイニゼミが6月28日、ヒグラシが7月3日、アブラゼミが7月18日、ツクツクボウシとミンミンゼミが7月20日、エゾゼミが7月21日という状況でした。

7月23日(土)の夜に『セミの羽化を観察しよう!』というイベントを開催しました。たくさんの参加者がありましたが、前日の雨と当日の豪雨により開催するか悩みました。なぜならセミの羽化は雨が降ると羽化率が極端に下がるからです。しかし開催時には晴れたため、なんとか開催することが出来ました。昨年と比べるとかなり羽化率が下がりましたが、参加者全員がセミの羽化を観察することができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。 【レンジャー: 齋 正宏】

動物



森の「あれこれ」



「幻の女王」

「遅かったか!?!」「いや、まだいける!!」。ダッシュでカメラをとりに戻り撮影したのが「キヌガサタケ(衣笠茸)」でした。



白昼夢を見ているかの心地でレースのカーテンのような菌網が開く様子にしばし見とれていました。暗緑色の網目状の傘にグレバという胞子を含んだ粘液がついて、腐ったような臭いをだし虫を集めます。小さくてわかりにくいのですが、傘の下にアリの仲間が集まっていた(上の写真、9時39分撮影)。この優雅な姿から「きのこの女王」と呼ばれます。

さて、キヌガサタケには「幻のきのこ」の別名があります。早朝に成長し始めると2~3時間で成長を終えやがてレースはしぼみ、(左上の写真11時53分撮影、左下15時26分)半日ほどで崩れて無くなるようです。実はこれらの写真は2018年の8月12日に撮ったものでした。

勿論生きものですからまったく同じ月日に出るわけはありません。気温や雨での影響で出現期も変わるでしょうが今年の夏も“幻の女王”を探してみようと思います。前回の出会いは、センター周辺の市道わきの笹藪でした。

【レンジャー：木田秀幸】

森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

ミカン科のマツカゼソウが葉を広げ、涼しそうに風に揺れていました。名前の由来は明確に分かってはいませんが、柔らかな葉柄にマメ科のような丸い葉が羽状に付き、揺れている姿はこの名前がピッタリ当てはまる気がします。葉の付き方は、写真①のように、三回三出複葉です。若い葉の柄に近い部分は黄緑色で、葉の先端にくほど緑色が濃くなるグラデーションは、絵画のようで美しいですね。 …(^_^♪



マツカゼソウ

日本でミカン科の植物は、このマツカゼソウを除いて、全て木本(樹木)です。分布は宮城県が北限とされることが多いようです。ミカン科の特徴として、葉や果実等に精油を含む油点があり、芳香(そう感じないものもありますが)を發します。花は写真②のように花弁が4枚の小さく白い花が咲きます。虫媒花ですが、全体に有毒物質メチルハルケトンを含み、動物が食べることはないようです。花柱は3~4本が合着し一本になっており、子房は写真③のように3~4個の分果になります。この分果の形は同じくミカン科のココサギの果実(写真④)にそっくりです。花が終わると例年10月頃には結実しますので見比べてください。 …… (^_^♪ 【レンジャー:菅原幸彦】

8月のイベント & お知らせ

イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

参加の際、新型コロナウイルス感染対策のため同意書の記入をお願いしています。

◆「家族で昆虫かんさつ」

【日 時】8月13日(土) 10:00～11:30

【定 員】小学生の子どもとその保護者10名(先着) 中学生以下は保護者同伴

【内 容】昆虫を探しながら散策し、触ったり観察したりします。

【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】8月6日(土)午前9時より電話受付(先着)

◆「虫のいどころ」

【日 時】8月20日(土) 10:00～11:30

【定 員】20名(先着) 中学生以下は保護者同伴

【内 容】昆虫探しのポイントを専門家から学び、観察しながら歩きます。

【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】8月7日(日)午前9時より電話受付(先着)



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: 7日, 14日, 21日, 28日
時 間: 10:00～11:30, 13:30～15:00
(4月より午前と午後の2回開催)

休 館 日



1日, 8日, 15日, 22日, 29日
毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

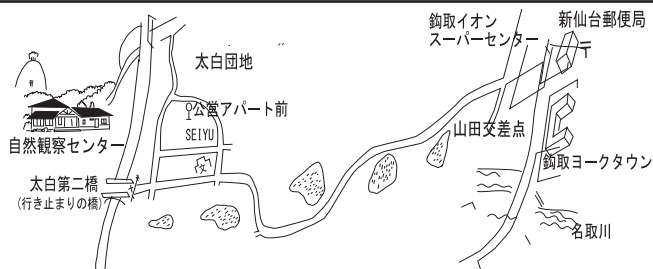
【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター